

## 桃の節句の集い

2018年3月2日 経堂保育園

3月に入り、ようやく暖かくなってきました。花のつぼみもほころび始め、春の訪れを感じるこの頃です。園内にひな人形を飾ると、子どもたちは興味を持って近づき、じっと見つめて「きれいだね」「この人はだれかな?」と話していました。古くから伝わるもの、心を込めて作られたお人形を前に、子どもたちの気持ちも自然と穏やかになることを感じました。

保育園では明日、3月3日のひなまつりを前に、地域や他園の方もお招きして「桃の節句」をお祝いしました。ひなまつりは子どもたちの成長と健康を願い(一般的には女の子のお祭り)、お祝いをする季節の行事です。昔は、病気で命を落とす子どもがたくさんいたので、自分の病気や怪我を紙で作った人形にうつして、川や海に流していたそうです。そこから、病気をふせぐ行事となり、人形を流さずに家に飾るようになりました。また、「桃の節句」ともいわれ、桃は邪気(病気などをおこすといわれる悪い気)をはらう力があると考えられ、旧暦の3月3日頃は桃の花の季節だったことから、ひなまつりには欠かせない花となりました。

桃の節句のお祝いでは、ひなまつりの由来を知り「おひなさま」・「さんにんかんじょ」・「ごにんばやし」など、お人形の名前をクイズ形式で楽しみながら、ひな段を完成させました。ひなまつりで食べられるひなあられや、ひしもちに込められた意味や願いなどの話も聞き、「うれしいひなまつり」を歌ってみんなの健康と幸せをお願いしました。



さんにんかんじょ!

むかしは、病気を人形にうつして川に流し、子どもたちの成長と健康を願っていました。



ひなあられの三色には、健康を願う緑、長生きできるように願う白、悪いことから身を守る赤(ピンク)、という思いが込められているそうです。

五人囃子は、太鼓・大鼓・小鼓・笛・歌う人がいます。



クイズを楽しみながら、ホールのひな人形が完成しました。

おひなさまのお世話をする人は誰でしょう?

